

日本学術会議第二部会（第25期・第4回）  
議事要旨

1. 日 時 令和3年12月3日（金）10:00～
2. 形 式 日本学術会議6A(1)(2)会議室及びオンライン会議システムを併用したハイブリッド開催

3. 出席者：（敬称略）

五十嵐、池田、池邊、伊佐、石塚、磯、市川、遠藤、尾崎、金井、狩野、川人、神田、北川、北島、経塚、熊谷、小松、小安、佐々木、澤、杉本、杉山、高井、高山、多久和、武田、丹下、寺崎、土井、戸田、中嶋、名越、西谷、仁科、西村（正治）、西村（ユミ）、西村（理行）、深田、藤井、古谷、松田、松本、眞鍋、水口、三谷、光富、宮地、村上、望月、山口、山崎、山本

4. 議 題

冒頭、武田部長から本会合の趣旨説明が、事務局から定足数の確認がなされた。

1. 審議

(1) 総会での「提言見直し」「会員選考見直し」について

武田部長より、総会での審議や承認の概要を説明し、第2部会員からの意見を求めたが、発言はなかった。

(2) 連絡会議（特にパンデミックとカーボンニュートラル）に対する第二部の活動について

総会での説明に加え、カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議に参加している丹下副部長とパンデミックと社会に関する連絡会議を担当している武田部長から、それぞれ追加の説明がなされた。

それに対して、カーボンニュートラルに関しては、生命科学に関するテーマをもっと提案してはどうかという意見があった。またパンデミックに関しては、タイムリーな情報発信や意思の表出の方策についての議論を行った。

(3) 第二部からの総合的・中長期的課題の会員からの問題提起について

すでに連絡会議が設置されたテーマ以外で学術会議で議論をすべきテーマを求めたところ、遺伝性疾患を対象とした着床前診断（PGT-M:医学会連合との連携）やマイクロプラスチックから溶出する物質の疾患への影響が提案された。

（追記：この問題提起は、武田部長より、午後の総会で報告された）

(4) 意思表出の際の第二部での査読の体制について

提言見直しが承認されたことを受けて、資料1に基づき具体的な運用の一つである査読体制について議論を行った。

査読体制の構成、特に外部査読委員の是非について意見を求めたところ、部および分野別委員会の両方において外部査読委員を加えられるとしておくことを賛同する意見があった。また複数の分科会、分野別委員会、連絡会議のワーキンググループ等が発出する場合

のフローについては、個別のケースで調整が必要であることが確認された。さらに査読者の選定や取りまとめの段階での具体的な運用に関して種々の提案がなされた。

査読の独立性や透明性および公開については、今後議論を行うこととした。

武田部長より、具体的な運用については1月に第2部の拡大役員会を開催して分科会委員長を交えて議論することが提案された。また科学的助言等対応委員会には丹下副部長、幹事1名（神田を部長が指名）に加えて3名の会員・連携会員に参画をお願いするとの説明があった。

科学的助言の提言の一つである、重要な学術研究のとりまとめについて、意見交換を行った。今期は従来のマスタープランに代わって、未来の学術振興に向けた重要な学術研究に関する骨太な取りまとめを行うにあたり、これまでの連続性も考慮し、今までの取り組みがリセットされるものではなく、より広範な研究分野を包括する取り組みとすべきとの意見があった。

#### (5) 来年度の第二部の活動方針

丹下副部長から今期の予算の執行について説明が行われ、特段意見はなかった。

#### 2. 委員会、分科会等の活動報告

資料2-3の公表をもって、(1)機能別委員会、(2)課題別委員会、(3)第二部附置分科会、(4)分野別委員会、(5)第二部が中心となった緊急フォーラム、学術フォーラム、(6)連絡会議の活動、(7)学協会連合との連携に関する報告に代えることとした。武田部長が報告内容に関する意見や質問を求めたが、発言はなかった。

#### 3. その他

事務局からの連絡事項として、現在、幹事会提案資料に関する執筆要領を作成中であることが説明された。

以上